



ねっどわーく



H24.09.21 No.4 1

■ 研究の視点にかかわって（指導案検討）

昨日、5年生で、助言者の秋葉先生と話題になったことということで、全体にかかわる部分をお伝えしたいと思います。

①指導案の中の研究の視点は、見る人に向けてではなく、授業者の思いや手立てを視点ごとに書き分けていく。

（従来で言えば「指導にあたって」の部分であり、結局は授業をふり返る（見る）視点にもなる）

②視点 1 から3までのつながりの確認

■視点 1

「生活から立ち上げる議題提案」

- ・各教科・道徳・生活から、その議題を立ち上げる手立て
子どもたちにとって、その議題で話合う必要感
- ・だれのために 何のために（相手意識・目的意識）
→従来までは、視点2に入っていたのですが、こっちに
組み入れたほうがわかりやすいのでは

■視点2

「相手意識や目的意識を大切にした話し合い活動」

- ・視点1でのべられた「相手」「目的」が大切にされつつ一の、
自己決定や集団決定（合意形成）の話し合い活動を、
どう活性させるかの手立て
→すでにわかっていることなどは短冊で可視化しておき、
話し合いの柱を明確にする とか
小グループから全体の話し合いへともっていくとかの
具体的手立て

■視点3

「よりよい自分・集団への高まり」

- ・どうやったら、高まるか、の具体的方法
→ふり返りカード？に記入したものを、
どんな場面でいかしていくかなどまで突っ込む？

キーワード↓

How
Why
Who
What

How
When
Where
Who
What
How

How